

2026年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：税法Ⅲ		専修：経営専修
担当教員名：金子 輝雄		科目区分：展開科目
<p>授業科目概要：</p> <p>本講義では、個々の租税法令の適切な解釈適用が行えるよう、租税法全般に共通する基礎理論の修得を目指して、前半は租税法序説として租税の意義、基本原則、解釈と適用等を扱い、後半は、納税者の権利を擁護し健全な納税慣行を維持することを念頭に、国税通則法、国税徴収法、租税救済法、租税制裁法等のいわゆる税務行政手続法分野を扱う予定である。加えて、論点を理解するために、適宜、重要判例を取り上げ検討する。なお、受講者の要望があれば、後半は租税実体法である法人税法や所得税法の所得課税制度の検討に代えてもよい。</p>		
<p>履修上の留意事項：</p> <p>研究論文の作成を見据えた学修が望まれる。以下の指定教科書等と講義内容はあくまでも予定であり、ある程度研究テーマを絞り込んでいる受講者のために、当該テーマに即したより専門的な文献に変更するなど、柔軟に対応する予定である。</p>		
教科書・参考書（参考文献）		
書名：『租税法』＜最新版＞ 著者／編者：金子宏著 出版社：弘文堂 出版年：第24版は2021年	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	
書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	
書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	
ディプロマ・ポリシー（DP）との関係		
DP1	DP2	DP3
○	○	○
<p>到達目標：</p> <p>租税法理論の体系的な修得。</p>		
<p>評価方法及び評価基準：</p> <p>課題への取り組みと討論の状況により判断する。 60点未満をF、60～69点をC、70～79点をB、80点以上をAとし、C以上の評価に単位を与える。 ＜各評価の基準＞ A評価：授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること B評価：授業内容の理解に基づいて、より広いケースにその理解を応用できること C評価：授業内容について、概ね理解していること</p>		

授業の方法： テキストの輪読と討論。	
第 1 回	テーマ：租税の意義 内 容：現代国家と租税、租税の意義と種類、租税の根拠 教科書／参考書 第1編 第1章
第 2 回	テーマ：租税の意義と特質 内 容：租税の意義と範囲、租税法の特色、租税法の位置 教科書／参考書 第1編 第2章
第 3 回	テーマ：わが国における租税法の発達 内 容：序説、第二次世界大戦前における発達、第二次世界大戦後における発達 教科書／参考書 第1編 第3章
第 4 回	テーマ：租税法の基本原則 内 容：租税法律主義、租税公平主義、自主財政主義 教科書／参考書 第1編 第4章
第 5 回	テーマ：租税法の法源と効力 内 容：租税法の法源、租税法の効力（適用範囲） 教科書／参考書 第1編 第5章
第 6 回	テーマ：租税法の解釈と適用 内 容：租税法の解釈、租税法の適用 教科書／参考書 第1編 第6章
第 7 回	テーマ：納税義務の成立・承継および消滅 内 容：納税義務の成立、納税義務の承継、納税義務の消滅 教科書／参考書 第2編 第4章
第 8 回	テーマ：附帯税（附帯債務）と納税者の債権（還付請求権） 内 容：附帯税と納税者の債権 教科書／参考書 第2編 第5・6章
第 9 回	テーマ：租税手続法序説 内 容：租税手続法の意義、租税行政組織と租税職員の守秘義務 教科書／参考書 第3篇 第1章
第10回	テーマ：租税確定手続 内 容：確定の方式、申告納税方式、賦課課税方式、確定権の除斥期間等 教科書／参考書 第3編 第2章
第11回	テーマ：租税徴収手続（1）—納付と徴収— 内 容：租税の納付、徴収納付、租税の徴収、徴収の繰り上げと納税の猶予等 教科書／参考書 第3編 第3章
第12回	テーマ：租税徴収手続（2）—滞納処分— 内 容：創設、租税債権の優先劣後、滞納処分の手続 教科書／参考書 第3編 第4章
第13回	テーマ：租税争訟法 内 容：総説、租税不服申立、租税訴訟 教科書／参考書 第4編 第1・2・3章
第14回	テーマ：租税処罰法 内 容：租税処罰法、租税犯則調査および通告処分 教科書／参考書 第5編 第1・2章
第15回	テーマ：まとめ 内 容：最近の課税問題についての議論 教科書／参考書 配布プリント